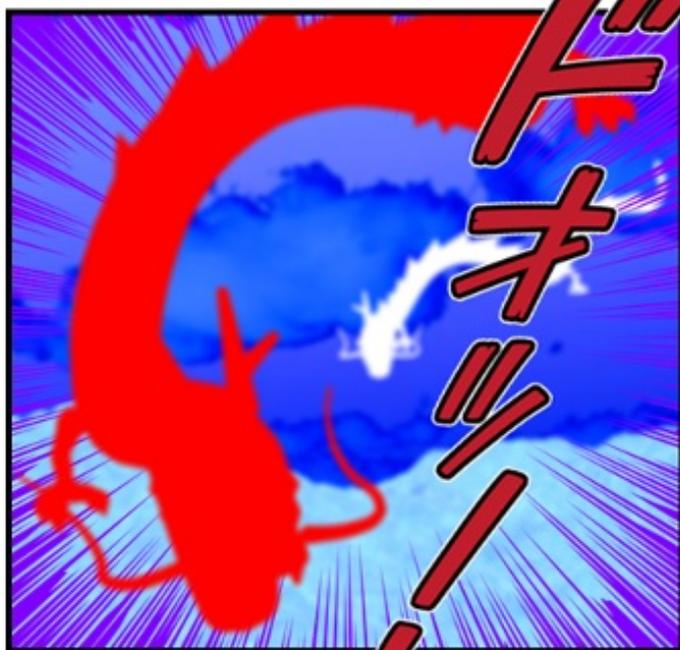




『サクラ・セレブレイト』

脚本：アストン＝路端
画像：コミポ！

www.comipo.com

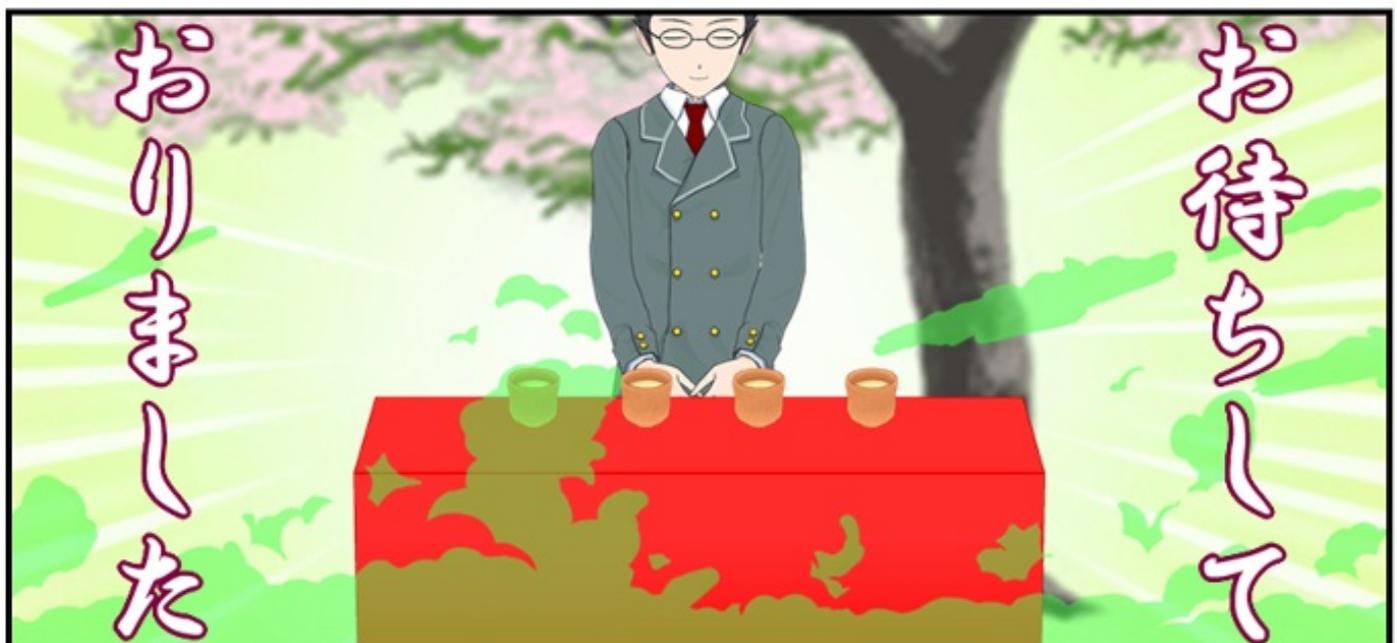






『サクラ・セレブレイト』

脚本：アストン＝路端
画像：コミポ！



花まつりとは―

明治時代にグレゴリオ暦が導入され
灌仏会の日付の読み替えが行われた後の四月八日が
関東地方以西で桜が満開になる頃である事から
浄土真宗の僧・安藤嶺丸が提唱した。

それ以来、宗派を問わず
灌仏会の代名詞として用いられている。

一方、明治以前の民間では
灌仏会とは直接関係のない先祖の法要や花立て
あるいは山の神を祀るための祭礼や山開きなどが
四月八日に行われる場合があった（卯月八日）。

祖先神でかつ農事の神でもあった山の神を祀る際には
花が一種の依代として用いられていたことから
花を用いて山の神（祖先神・農事神）や
祖先を祀る民間習俗に仏教行事である灌仏会が習合した結果
「花まつり」となったとする解釈もある。

灌仏会（かんぶつえ）は
釈迦の誕生を祝う
仏教行事である。

日本では原則として
毎年四月八日に行われる。

釈迦（ゴータマ・シッタッタ）が
旧暦の四月八日に生まれた
という伝承に基づく。

降誕会（こうたんえ）

仏生会（ぶっしょうえ）

浴仏会（よくぶつえ）

龍華会（りゅうげえ）

花会式（はなえしき）

花祭（はなまつり）

などの別名もある。

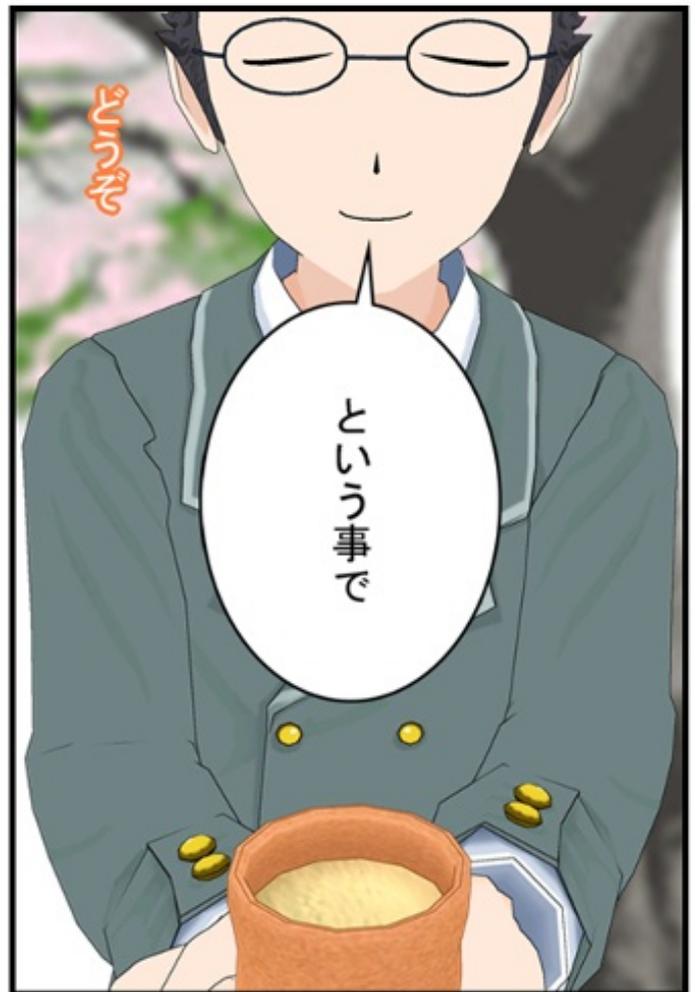
お寺が経営している幼稚園や
保育園では、花まつりの方が
よく知られている。

子どもたちにとっては甘茶を
いただく日であり

稚児行列を出す寺も多い。

仏教系の学校でも行う場合が多い。

四月八日は新年度が始まった
直後で多忙な時期であるため
月遅れで行われることもある。



甘茶とは

ユキノシタ科の落葉低木ガクアジサイの変種であるアマチャの若い葉を蒸して揉み、乾燥させたものとそれを煎じて作った飲料を言う。

ウリ科のつる性多年草であるアマチャヅルの葉や全草を使った茶を甘茶ということもあるが

「アマチャ」を使った甘茶が本来の甘茶である。

飲料としての甘茶は黄褐色で甘みがあり灌仏会（花祭り）の際に仏像に注ぎかけるものとして古くから用いられた。

八大竜王が釈迦の生誕を祝い産湯に甘露を注いだという故事によるものである。

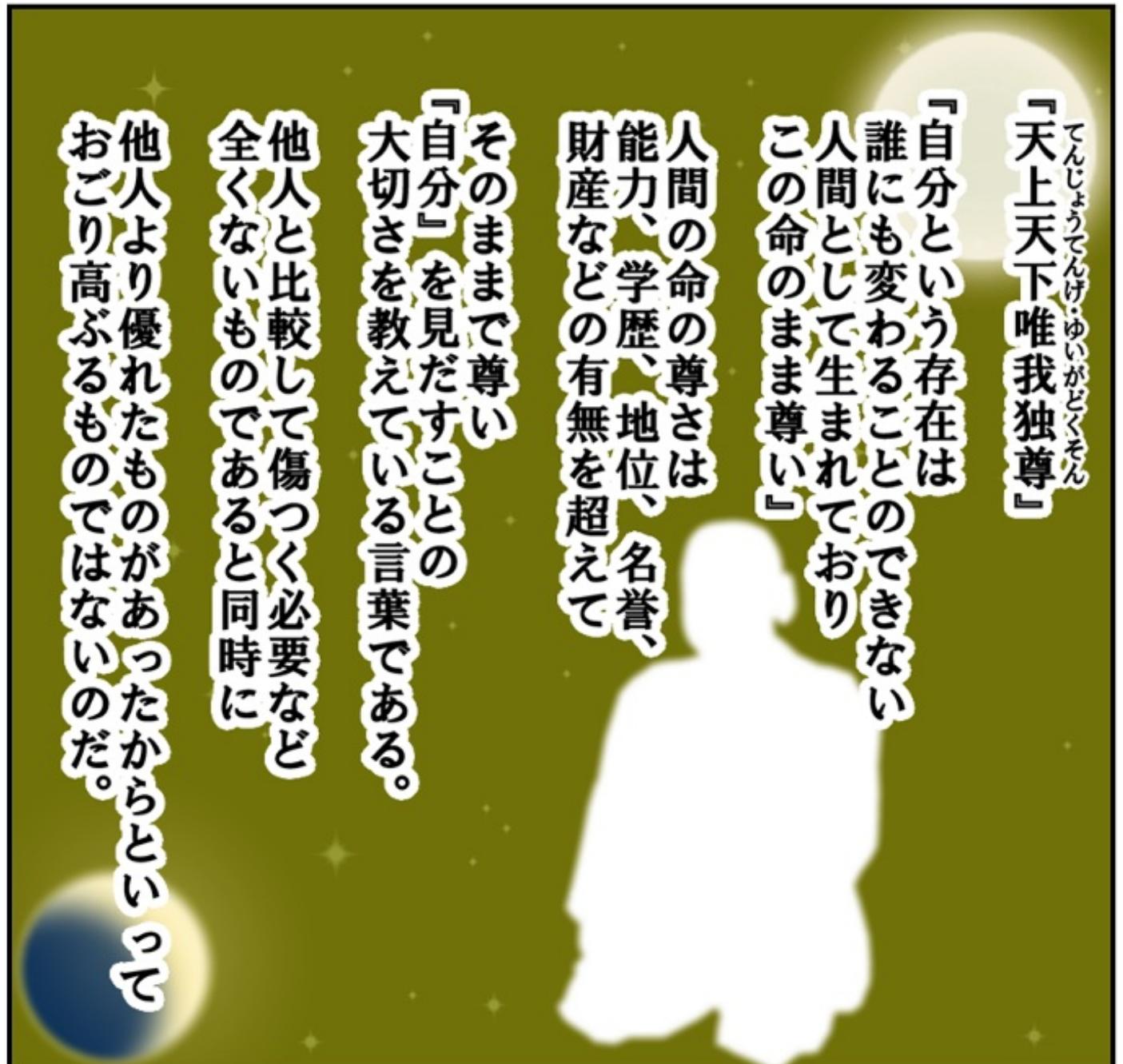




「自己中か！」
：って
竜王の甘露で
頭冷やされ
たのよね？



伝説によるとー
生まれた途端七歩歩いて
右手で天を指し
左手で地を指して
『**天上天下唯我独尊**』と
話したものだからー



てんじょうてんげ・ゆいがどくそん
『**天上天下唯我独尊**』

「自分という存在は
誰にも変わることでできない
人間として生まれており
この命のまま尊い」

人間の命の尊さは
能力、学歴、地位、名誉、
財産などの有無を超えて

そのままで尊い
「自分」を見だすことの
大切さを教えている言葉である。

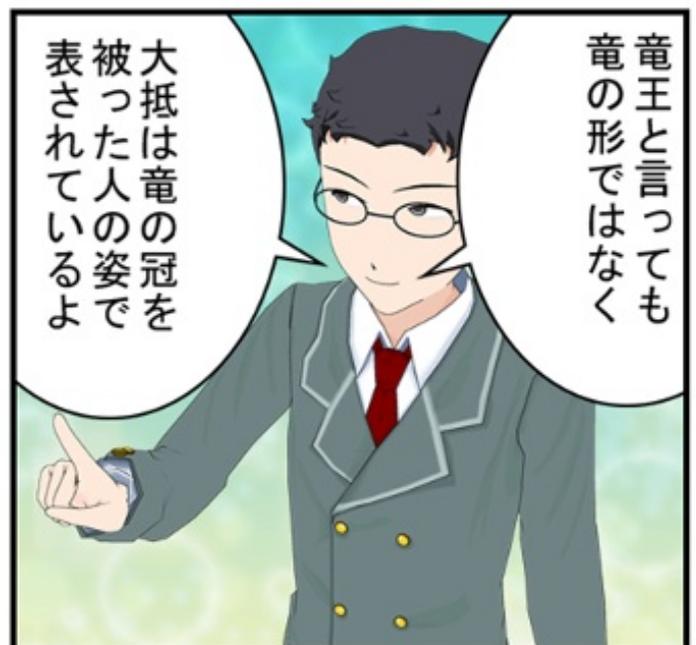
他人と比較して傷つく必要など
全くないものであると同時に

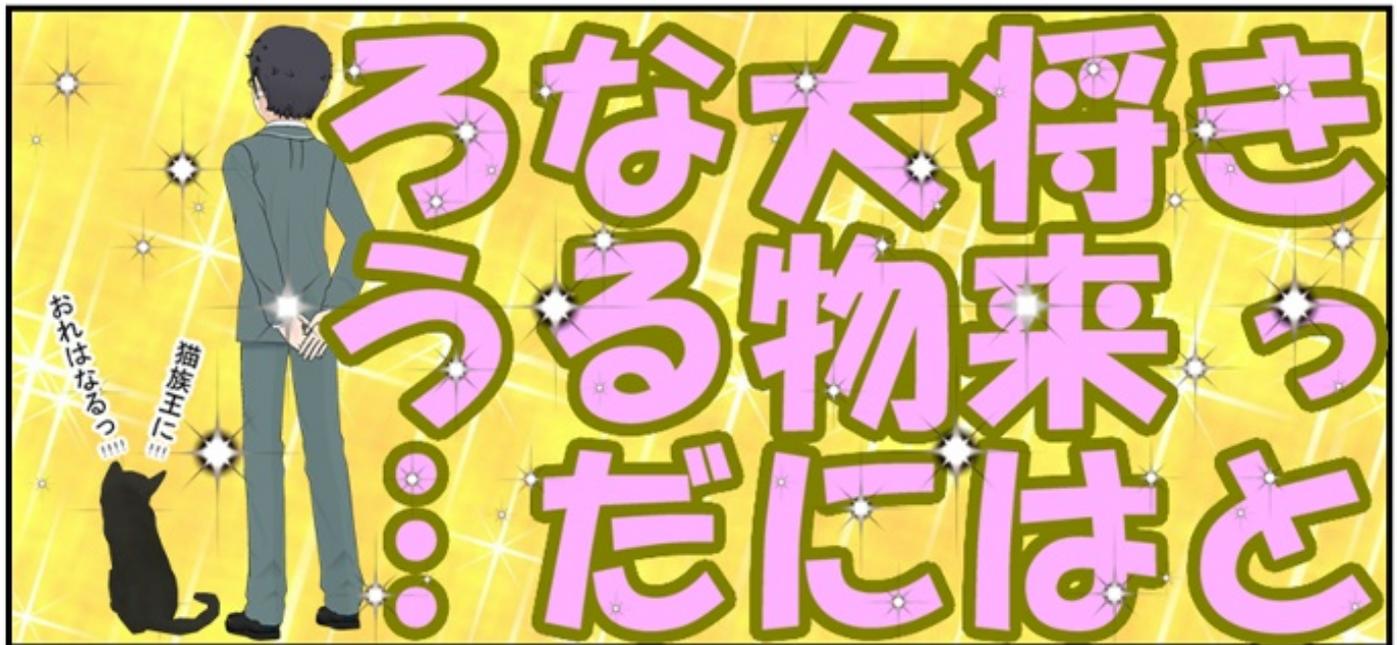
他人より優れたものがあつたからといって
おごり高ぶるものではないのだ。



優^ウ摩^マ阿^ア徳^タ和^ワ娑^サ跋^バ難^ナ
鉢^パ那^ナ那^ナ叉^シ修^{シュ}伽^ガ難^ナ陀^ダ
羅^ラ斯^ス婆^パ迦^カ吉^キ羅^ラ陀^ダ
達^ダ多^ダ

八大竜王









時計は既に

夕刻を伝えているけれど

日は既に長く伸び

暗くなる筈の空は未だ

真昼の名残を留めている

開いた花びらは

訪れた季節を祝うかのように

いつまでも光を湛えていた

カル
けん!!



『サクラ・セレブレイト』完

カルけん！！（１９）

<http://p.booklog.jp/book/96538>

著者：アストン＝路端

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/robounoishi2009/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/96538>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/96538>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ